

【スウェーデン・ウッデバラ市の高校生受け入れの感想】

昨年に引き続き、素敵なお縁をいただき、ありがとうございました。

今回、我が家に来てくれたアレックスは好奇心旺盛で、様々な質問をしてくれたので、私達も日本での当たり前を「なぜ？」と考えたり、調べてみたりして、勉強になりました。日中のアクティビティについても毎日楽しそうに話してくれ、お互いの国の違いや共通点についても、たくさん話すことができたので、理解がととても深まったように感じました。また、家のルールや生活リズムを尊重し、食事前の「いただきます」など、慣れない日本語にも挑戦してくれました。

自宅での時間は、一緒に餃子やたこ焼きを作ったり、テレビゲームをしたりして過ごし、週末には、ショッピングモールや回転寿司店に行きました。また、スウェーデンの家族の愛車が「スバル」ということで、街でスバルの車を見かける度に目を輝かせていたので、スバルのディーラーにも行ってみることにしました。スウェーデンでは見たことがないという車種2台を試乗し、お店の素敵な計らいで立派なミニカーもいただき、とても喜んでくれました。

2人の子供にも、とても優しくしてくれました。4歳の息子とは、手を繋いで保育園へ行ったり、一緒にトミカで遊んだり、スウェーデン語でのABCの読み方を教えてくれたり。1歳の娘にも、食事をあげたり、あやして笑わせてくれたりと、一瞬で“自慢のお兄さん”になりました。娘の日々のほんの小さな成長にも気付いて、一緒に喜んでくれたことが、とても印象的で嬉しかったです。

家族みんなにとって、かけがえのない貴重な思い出ができたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。アレックスの未来が、明るく幸せに溢れる毎日となることを、家族全員心から願っています！改めて、この度はありがとうございました。

<小話>

“スウェーデンのラズベリークッキー (Hallongrottor) が好き” と話した翌日、「北欧の珈琲店 オーテル」に立ち寄った際に、買ってきてくれました。帰宅後すぐ「プレゼントがあるよ！」と嬉しそうに渡してくれたのが可愛らしく、ちょっとした話を覚えていて思い出してくれたことが、とても嬉しかったです。

早川 恭平・彩